

西区まちの応援団

皆さんは、野球やサッカーなどのスポーツでお気に入りのチームを元気づけるために声援を送ったことがありますか。私たちが住むまちにも、まちを元気づけるために熱い思いで頑張っている人たちがたくさんいます。今月は、私たちの身近なところでまちを「応援」している人たちを紹介します。

福井ばやし「マン」にあり

札幌福井ばやし保存会

福井地区に伝わる郷土芸能「福井ばやし」をご存じですか。昭和五十四年に「札幌福井ばやし保存会」が設立されてから三十年。平成二十年十月には、設立三十周年を祝う記念式典で華麗なばちさばきが披露され、地域の人たちから喝采を浴びました。

▼後世に残したい響き

設立当初からの太鼓の打ち手で、同会副会長の石井明子さんは、福井地区の方の先祖が住んでいた福井県の無形文化財「明神ばやし」を聞いて「こんなにしてきな太鼓の響きは、必ず後世に残そう。福井の将来を担う子どもたちに教えよう」と思ったそうです。



▲石井さん

「おはやしの形になるまでに三年、納得いく演奏ができるまで十年かかりました」と石井さん。始めたころは、太鼓のたたき方を習いに福井県まで出向くなどして、仲間たちと懸命に練習して技術を習得したそうです。

現在の会員数は、小学生以下の子ども十八人を含む五十四人。西区成人式をはじめ、北海道神宮祭や地元の夏祭りなど、一年を通して演奏活動をしています。

▼子どもたちに「二つの宝」

今までに千人以上の子どもたちが、この会から巣立っていきました。石井さんは、そんな子どもたちは「二つの宝」を持っていると言います。

一つ目は、太鼓をたたく技術。ある年の夏祭りでは、成長した教え子たちが飛び入りで太鼓の演奏に加わったことがあり、大人になっても「郷土の響き」を覚えていてくれたことが、何よりもうれ



▲「福井ばやし」を練習する児童。練習は小学校の冬休み期間を除く毎週火曜日に福井記念館で行われています。



▲設立30周年記念式典での華麗なばちさばき

しかったそうです。

二つ目は、ふるさと福井を誇りに思う心。子どもたちから福井ばやしを演奏することで、まちに愛着を感じ、その気持ち「郷土への誇り」につながると言います。

▼まちを愛する心意気

平成十三年には、太鼓演奏を授業に取り入れている福井野小学校と共同で太鼓集会を開き、児童に演奏方法を指導するなど、地域との交流で「郷土の響き」が着実に受け継がれています。

この三十年の活動は「まちを愛する人たちに支えられてきたおかげ」と話す石井さん。「これから『福井ばやしここにあり』の心意気で太鼓の音を響かせたい」と語ってくれました。